

ゆずりは通信

第14号 平成22年12月15日(隔月発行)

発行：ゆずりはの会事務局

電話：0565-35-7182

Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp

ホームページ：

<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

ゆずりはの会 勉強会

菅沼医院における在宅医療のこころみ ～訪問診療・訪問看護の実際～

12月8日 午後7時～9時

福祉センター 22 研修室

講師 菅沼医院院長 菅沼正司

看護師 松井登世美

参加者は28名でアンケートには
13名の回答がありました。



I 菅沼先生が話されたこと

1. 菅沼院長の経歴

1989年：藤田保健衛生大学医学部卒業、

1995年：医学博士、

はじめは、外科医として、癌などの治療に従事。メスで病気を治せると意気込んでいたが、その限界も感じた。その後、抗癌剤や難病に対する新薬の開発業務に携わり、一定の成果を上げることができた。その傍ら、内科の外来診療を行ってきた。

2010年、父親が開院していた菅沼医院を引き継いだ。今までの経験を糧として、プライマリーケアのみならず、癌治療・癌終末期ケア、希少・難治性疾患の支援など、地域医療に必要とされる医療レベルの向上を目指し、がんばる覚悟である。

2. 在宅医療に対する考え方

父親が地域(高橋町)に根ざした医院を開業しており、往診も行っていた。患者は、外来として医院を訪れ治療を受ける。ある時期から通院ができなくなる。すると今度は医者がお宅へ出かけてゆくことになる。例えば、毎月通院していた人には、毎月1回お宅を訪問する。治療の流れをとぎらせることはない。中途で見放すこともない。それが患者と医者の基本的な関係であり、忠実に守ってゆくつもりである。

往診とは、予想外の変化があった時に患者さんからの呼び出しに応じて、訪問すること
訪問診療は、計画を立てて、定期的に、お宅を訪問して医療行為を行うこと。

菅沼医院は在宅療養支援診療所に指定されている。在宅療養支援診療所は、24時間連絡が取れる体制を整えることなどの条件がある一方で、診療報酬が増額されている。

3. 人間が生きてゆくことの意味

以前に、寝たきり老人のような人を診ると、この人が生きてゆく意味は何だろうと思ったことがあった。多くの人や家族と接してきて、考えが変わった。患者を支える家族あるいは周囲の人が、献身的に世話をしている様を見て、その人たちの生きがいあるいは人生そのものになっている。患者の身体だけを診るのではなく、その人を取り巻く人たちの心までを含めてみると、人が生きてゆくことの尊さを改めて認識した。

4. 訪問看護に力を入れる理由

在宅医療では、看護師の役割が大きい。

- * 医療処置、管理の大部分は看護師が行うし、
- * 生活全般を見ているから、患者の全体像を把握できる。
- * 家族への介護・看護指導や精神的な支援や、時には家族関係の調整を行うこともある。

医者の方の果たす役割は、1/10位かもしれない。医院によっては、訪問看護を専門に行っているステーションと提携して役割を分担しているが、当医院では、患者をトータルで見ることができるよう、看護ステーションを同じ医院内に設置した。当医院の特徴と言える。

II 松井看護師のお話

豊田市の出身。しばらく神奈川県で働いていた。豊田市の人は神奈川県の人と比べて、介護・介護保険の制度を知らないし、利用していない人が多い。自分は看護師だが、時にはケアマネジャーの役割を負っている。



III 受講者の自由意見

MK さん

菅沼先生の「患者さんを長く最後まで診るのは、昔からの自然な流れ」という考え方に感動しました。「生きていること、そのことが家族や周りの人にとっては、意味があった」という言葉にも驚かされました。

KU

在宅医療と往診の違いを明確にわからせていただきました。先生の患者に対する人間的な温かさを感じてうれしくなり、また人間の「死」に対する謙虚な態度に感心しました。先端外科手術から、抗癌剤開発へ、さらに最後まで看取る在宅医療へと移行されたいきさつにも納得しました。どうぞめげずにがんばってください。

「訪問看護」について勉強になりました、豊田市はまだまだ後進地区と知り松井さんのような高い志を持った看護師さんとそれを支える在宅診療医師がふえますように・・・

介護・医療保険の区分の複雑さも少し理解できました。当事者になった時には、見識のあるケアマネジャーを選びたいものです。

YM

今日は来て良かったです。心あたたかくなりました。地域で高齢者を支える活動をこれから進めてゆく上で元気が出ました。地域の病院で菅沼先生のような医師が、松井さんのような看護師の人がいたら、少しいい感じで進んでゆくのでは、と思えました。私たち市民ももっと勉強した方が良くと思いました。

TK

菅沼先生に、リ्यूマチで見ていただいた吉川紀美子さんが「よろしくと伝えて」と言っていました。彼女はとても元気になっています。訪問看護、在宅支援診療、とても心強く感じます。理想の医療だと心強く思いました。本日出席してよかった。

IT

我が家には、障害の子がおり、主人はパーキンソンということで不安でしたが、将来も相談にのっていただけそうで安心いたしました。

TK

訪問看護部概念図で、訪問看護師が中心におり、主治医も協力者の一人という説明は、実態としてはそうかな、と納得しました。同時に、そうした仕組みが動き出せば、その通りかもしれませんが、そうした仕組みを各地にたくさん作る運動には、医師のイニシアティブが最も有効だろうな、とも感じています。

ET

往診と在宅支援診療所の違いがわかったので、今後の高齢化に向かって安心できると思った。また医療と介護の複雑さを、一般の人が理解することが難しいことも知る。菅沼先生の人間性をすごく感じた。こんな先生や看護師さんが増えてくださるとうれしく思えます。こんな会を開いていただき感謝いたします。

TY

介護保険・医療保険の区別が理解できた。講師さんの人間性がとてもわかり、この様な診療所が各地に存在すれば、老後を安心して迎えられる気がします。

HM

保険制度の違いや医療行為の行える訪問診療という内容を初めて知ったので、とても有意義でした。市内でもより多くのこのようなシステムの診療所ができると良いと思った。

MK

今までは親の介護でしたが、これからは自分のことを考えねばと思いました。療養支援のこと、ありがたいと思います。地域でもっとやったださる医院が増えることを願っています。

HN

菅沼先生のお話が聞けてよかったです。先生や松井さんのような方が増えると医療や介護も整って安心した生活が送れると思いました。企画していただいてありがとうございました。参加できてよかったです。

SH

在宅療養支援診療所の意味がやっと理解できました。豊田市全体に広がると安心できますね。

HN

豊田市に、菅沼医院のように在宅医療が展開されるよう期待したい。(中心市街地や山間地とも)

次回の定例会

平成 23 年 1 月 11 日(火) 午後 7 時～8 時半
福祉センター 22 研修室

話題

- ① 12 月の勉強会について、感想などの話し合い
- ② 加藤さんからの話題提供

資料:「射水市民病院呼吸器外し事件の総括」が 11 月例会で配布されています。

③ 次の勉強会

- * 個人の医院における訪問看護のお話を聞いたので、今度は病院など大きい施設の状況をお聞きするとか。その場合は、またゆずりはの会の会員以外の人にも案内をさしあげたいと思います。
- * 誕生学の話？



菅沼医院待合室



菅沼医院診療設備